

チームオレンジ ～ このまちで自分らしく生きていく ～



1.基本情報(令和6年10月末現在)

市・町名	対馬市厳原町(南圏域)		
人口	高齢者人口	高齢者率	面積
9,826人	3,751人	38.17%	175.59km ²

2.チームの概要

チーム名	かどっこ庭		
開始時期	令和 6年 11月 ～		
実施主体	☐ 市町 ☒ 地域包括支援センター ☒ 住民・ボランティア ☐ 社会福祉協議会 ☐ その他 ()		
チームオレンジ コーディネーターの属性	認知症地域支援推進員(対馬市地域包括支援センター)		
メンバー構成	認知症サポーター、認知症当事者、家族(支援者)、認知症地域支援推進員 地域包括支援センター 他		
活動頻度	月2回 第2・4火曜日 13:30～15:00		
チームオレンジの類型	☐ 第1類型 共生志向の標準タイプ ☒ 第2類型 既存拠点活用タイプ ☐ 第3類型 拠点を設置しない個別支援型タイプ ☐ その他		
チームオレンジ三つの基本について	☒ 3つの基本を満たしている ☐ 3つの基本は満たしていないものの仕組みが構築されている。		
運営財源	☐ 市町からの委託 ☒ 市町からの補助 ☐ 会費・参加費 ☐ その他 () ※上記の財源 ☐ 市町一般財源 ☐ 地域支援事業交付金 ☐ その他 ()		

3. チームオレンジの設置に至ったプロセス

令和2年から市の助成金を活用し、認知症カフェ「かどっこ庭」が月2回、自主活動として開催されている。カフェの開催場所が、郵便局や商業施設等、認知症の支援に理解のある団体や地域包括支援センターとも隣接しており、認知症の方の見守り、孤立しないための声かけ、相談相手、必要時地域包括支援センターへの相談等、チームオレンジとしての活動を実践されていたことに着目し、「かどっこ庭」の運営に携わっている代表者へステップアップ講座を案内。講座への参加を機に、チームオレンジとしての発足に働きかけた。

4. 活動内容

- ・認知症カフェ「かどっこ庭」の運営
- ・認知症高齢者家族のつどい「ひとつばたご会」への協力
- ・代表者夫婦によるギター演奏、歌(回想法)
- ・居住地域における通いの場(自主活動:月2回開催)の運営
- ・認知症カフェに限らず、居住地域における認知症が気になる方を見守り、孤立しないための声かけ、相談相手、必要時地域包括支援センターへの相談

5. 活動を進めて行く上で工夫したこと・配慮したこと

認知症地域支援推進員が中心となり、地域で生活する認知症の当事者や家族の困りごとを把握し、カフェ運営の代表者からも地域での実態を聞き取る等、地域包括支援センターと認知症サポーターが連携し、活動を行っている。

地域で生活する認知症の当事者、家族の見守りを行う中での困りごとを共有し、今後の活動に活かしていく場とするため、令和7年2月、「長崎県支部 認知症の人と家族の会」来島に合わせ、座談会を計画している。

6. ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

対馬市は3圏域それぞれにおいて、チームオレンジの立ち上げを計画している。県すこやか財団 オレンジチューター、県長寿社会課より来島いただき、令和6年1月に北圏域において、市内で初となるステップアップ講座を開催。続いて令和6年11月に南圏域で、令和7年度は中圏域での開催を計画しており、今後も他圏域での講座開催に合わせ、南圏域内の受講者を募る等、対馬市全域での取り組みを活用し、認知症サポーター活動の充実を図りたい。

7. 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

【効果】

対馬市市民劇団の団員や音楽活動等、代表者が幅広い活動をされており、認知症声かけ訓練の参画等、認知症サポーターとしても幅広い活躍が期待できる。

【課題】

周囲は支援が必要と感じていても、地域で暮らす認知症の当事者や家族が支援の必要性を感じていない、または拒否がある場合、介入方法や今後の支援について関係者が集って協議を行う等、認知症サポーターを巻き込んだ活動が必要となる。また、今後は若年性認知症への支援体制づくりについても、関係機関との協議が必要である。

8. チームのアピールポイント

平成21年3月に、南圏域において初回となる認知症高齢者の家族の集いが開催され、令和2年度には圏域内で最初の認知症カフェ「かどっこ庭」が発足しました。家族の集い、認知症カフェが、支援者を中心に現在も定期開催されています。「どこどこの誰々」と、わかり合っている地域の関係性を強みに、今後も認知症の当事者や家族の在宅生活を支える支援者として、地域包括支援センターとともに認知症の当事者や家族に寄り添った温かい活動を続けていきます。

9.今後の活動について

市内には県立高等学校が圏域ごとに1箇所ずつあり、年に1箇所ずつ声かけ訓練(認知症サポーター講座)による啓発活動を実施しています。令和7年度に開催する南圏域内の高等学校においては、認知症サポーターの参画を計画する等、これまで以上にサポーターを巻き込んだ活動の充実に繋がたいと考えています。今後はさらに若年層の小中学生への講座開催等、地域において、全世代で認知症の当事者、家族を支えられる活動を目指します。また、必要に応じて圏域内の他地区においても市民への普及啓発活動を行う等、チームオレンジ立ち上げの拡大に向けた取り組みを続けていきます。